禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

D15

「中央職業能力開発協会編」

令和６年度 技能検定
３級 建築大工 学科試験問題
(大工工事作業)

1. 試験時間　1時間
2. 問題数　30題
3. 注意事項
   (1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2) 答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。
   (4) 試験開始の合図で始めてください。
   (5) 解答の方法(真偽法)は次のとおりです。
      イ. 一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
      ロ. 答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
      ハ. 答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。
   (6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

1　木造建築物の構法には、在来軸組構法、枠組壁工法(ツーバイフォー工法)、木質プレハブ構法等がある。

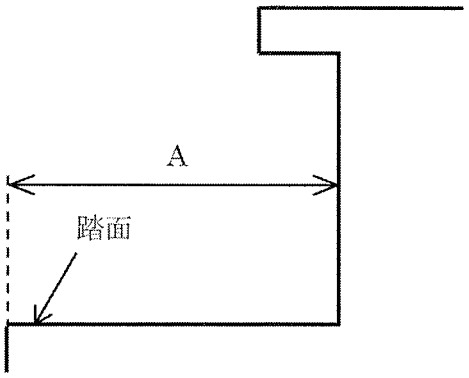
2　木造建築では、体育館などの大スパン構造を造ることはできない。

3　建築基準法関係法令によれば、付け柱は、主要構造部である。

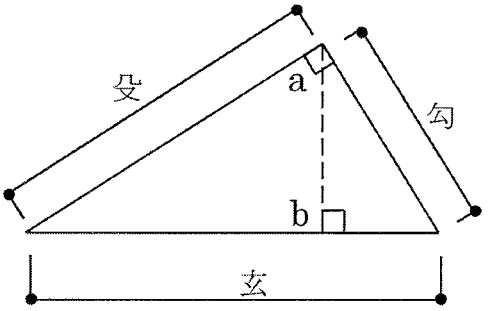
4　断面寸法30mm×90mmの筋かいは、圧縮力を負担する筋かいとして使用することができる。

5　木造建築物において、内法高さとは、敷居の上端から鴨居の下端までの距離のことをいう。

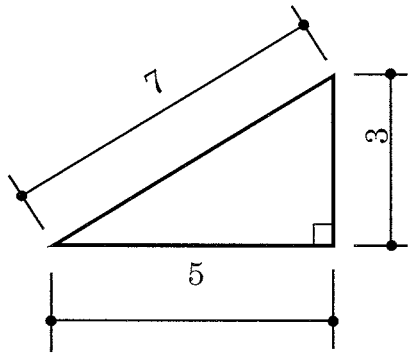
6　次図(断面図)の住居内階段のA寸法は、踏面寸法である。



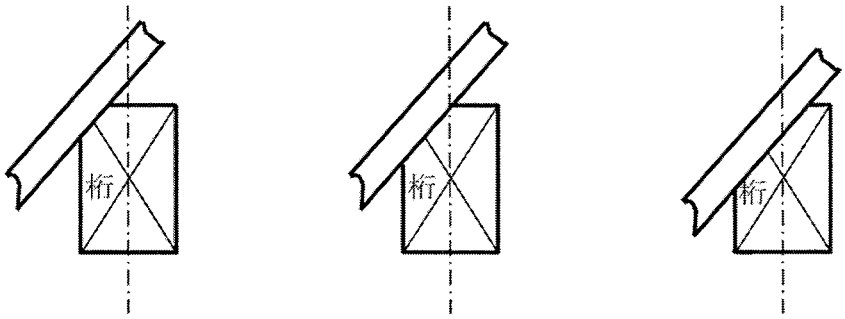
7　次図の直角三角形において、点線a—bは、欠勾を表している。



8　次図の大矩（おおがね）の辺の長さの比は、正しい。



9　次図のうち、桁上端が峠となっているのは、図Cである。



図A　　図B　　図C

10　さしがねの裏目は、表目の$\sqrt{3}$倍した目盛りとなる。

11　玄能の打ち面には、一端が凸(球)面になっているものがある。

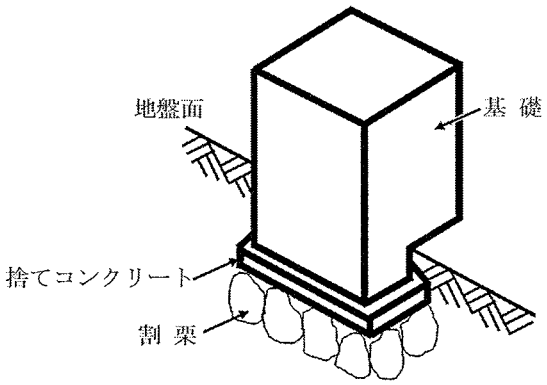
12　木材加工用丸のこ盤を使用する場合は、安全カバーを使用しなければならない。

13　かんな刃の裏打ちとは、かんな刃を金敷きに当て、かんな刃先の地金部分を叩いて裏を出す作業のことをいう。

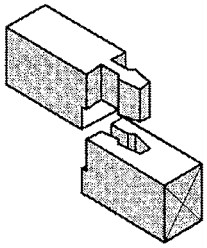
14　水盛り・遣方とは、水貫を水平に打ち回し、基礎の高さ及び基礎の深さを割り出す水平基準と建物の位置等を表すものである。

15　アンカーボルトの先端は、一般に、ナットの外側と平らになるように固定するとよい。

16　次図は、独立基礎を表している。



17　次図の継手は、腰掛けあり継手である。



18　仮筋かいと本筋かいの取付け方は、異なる。

19　敷居の溝は、通常、木表面に加工するとよい。

20　構造部材の欠込みは、できる限り少なくするように加工するとよい。

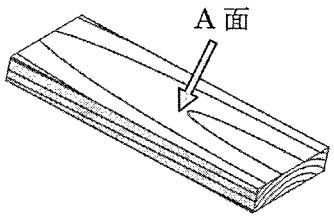
21　筋かいと間柱が取り合う納まりでは、間柱ではなく筋かいを欠込む方が望ましい。

22　木造の建方において、ゆがみ直しは、角柱1本を選び修正すればよい。

23　化粧柱の養生紙をとめるテープは、粘着力が強いテープがよい。

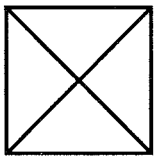
24　アルミニウムは、ガラスよりも熱伝導率が大きい。

25　次図の木材のA面は、木裏である。

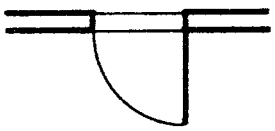


26　木材の一般的な性質で、辺材は、心材に比べて乾燥に伴う収縮が小さい。

27　次図の屋根伏図は、切妻屋根である。



28　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図の平面表示記号は、出入口一般を表す。



29　労働安全衛生法関係法令によれば、墜落による危険防止のため、足場を組み立てる等の方法により作業床を設けなければならない作業箇所の高さは、2m以上とされている。

30　労働安全衛生法関係法令によれば、ドリル等の回転する刃物を使用するときは、手袋を使用してはならない。